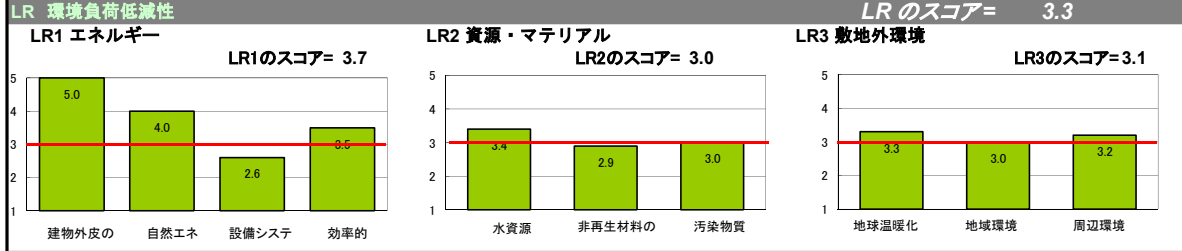
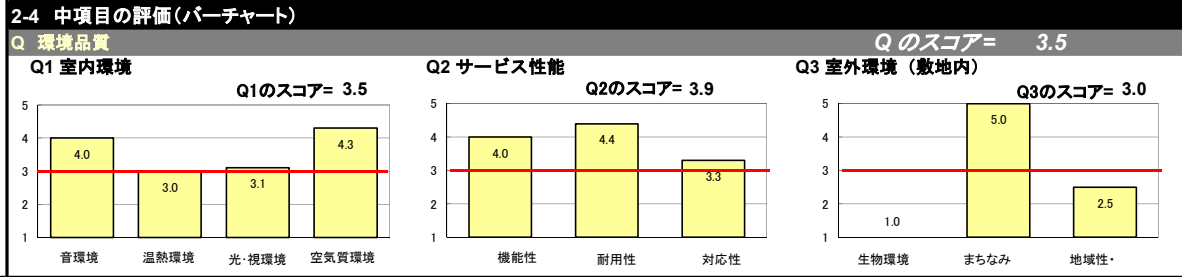
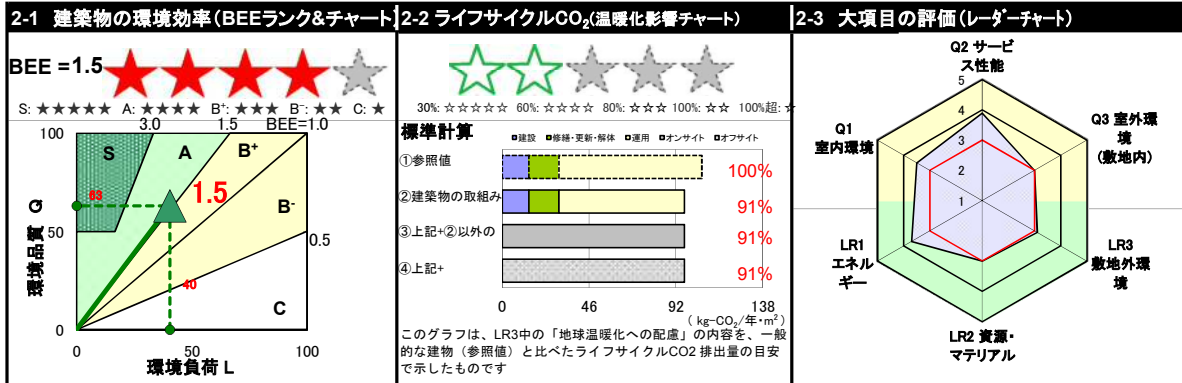


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	知多信用金庫 本部	階数	地上7F、塔屋1F
建設地	愛知県半田市星崎町3丁目39番地の1	構造	S造
用途地域	近隣商業地域、準防火地域	平均居住人員	96 人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,400 時間/年
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2019年12月 予定	評価の実施日	2017年12月21日
敷地面積	2,261 m ²	作成者	日建設計 森岡
建築面積	652 m ²	確認日	2017年12月21日
延床面積	4,133 m ²	確認者	伊藤建築設計事務所 森本



3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.3</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="text-align: center;">14.9 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="text-align: center;">0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.3</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
 LR-3 1 地球温暖化への配慮
 ②資源の有効活用
 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
 LR-2 2 非再生性資源の使用量削減
 ③敷地内の緑化
 Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用建物全体・共用部(廊下・宿泊) 住居・宿泊部分						
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質										
Q1 室内環境										
1 音環境										
1.1 室内騒音レベル		居室で45dB(A)以下		4.0	4.0	0.40			-	4.0
1.2 遮音		T-2以上		4.2	4.2	0.40			-	4.0
1 開口部遮音性能				5.0	5.0	0.60			-	
2 界壁遮音性能				3.0	3.0	0.40			-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)									-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)									-	
1.3 吸音		居室では、床にタイルカーペット、天井に岩綿吸音板を採用		4.0	4.0	0.20			-	
2 温熱環境										
2.1 室温制御				3.0	3.0	0.35			-	3.0
1 室温				3.0	3.0	0.50			-	
2 外皮性能				3.0	3.0	0.38			-	
3 ソーン別制御性				3.0	3.0	0.25			-	
2.2 湿度制御				3.0	3.0	0.38			-	
2.3 空調方式				3.0	3.0	0.20			-	
3 光・視環境										
3.1 昼光利用		5階大部屋中央で1.5%		3.1	3.0	0.25			-	3.1
1 昼光率				3.0	3.0	0.30			-	
2 方位別開口				3.0	3.0	0.60			-	
3 昼光利用設備				3.0	3.0	0.40			-	
3.2 グレア対策		ブラインドとPCマリオンによる縦庇を採用		4.0	4.0	0.30			-	
1 昼光制御				4.0	4.0	1.00			-	
3.3 照度				2.0	2.0	0.15			-	
3.4 照明制御				3.0	3.0	0.25			-	
4 空気環境										
4.1 発生源対策		全面にF☆☆☆☆を採用		4.3	5.0	0.25			-	4.3
1 化学汚染物質				5.0	5.0	1.00			-	
4.2 換気		給排気口は6m以上の離隔を確保		3.3	3.3	0.30			-	
1 換気量				3.0	3.0	0.33			-	
2 自然換気性能				3.0	3.0	0.33			-	
3 取り入れ外気への配慮				4.0	4.0	0.33			-	
4.3 運用管理		喫煙室の設置		4.0	4.0	0.20			-	
1 CO ₂ の監視				3.0	3.0	0.50			-	
2 喫煙の制御				5.0	5.0	0.50			-	
Q2 サービス性能										
1 機能性										
1.1 機能性・使いやすさ		一般事務室は9.7㎡/人 十分な容量を確保	独自	4.0	3.3	0.40			-	4.0
1 広さ・収納性				4.0	4.0	0.33			-	
2 高度情報通信設備対応				5.0	5.0	0.33			-	
3 バリアフリー計画				1.0	1.0	0.33			-	
1.2 心理性・快適性		一般事務室は天井高さ2.8m、窓あり 食堂を開放し自動販売機を設置、一般事務室面積比12% 来客側は石と木、執務側は工業材料として、バースにより検討		4.6	4.6	0.30			-	
1 広さ感・景観(天井高)				4.0	4.0	0.33			-	
2 リフレッシュスペース				5.0	5.0	0.33			-	
3 内装計画				5.0	5.0	0.33			-	
1.3 維持管理		内装は極カフラットとして埃だまりを防ぎ、外装は防汚性に配慮 清掃員室を独立設置するとともに各階へのSK流し・用具庫設置		4.5	4.5	0.30			-	
1 維持管理に配慮した設計				4.0	4.0	0.50			-	
2 維持管理用機能の確保				5.0	5.0	0.50			-	
2 耐用性・信頼性										
2.1 耐震・免震・制震・制振		基礎免震構造を採用		4.4	5.0	0.31			-	4.4
1 耐震性(建物のこわれにくさ)				5.0	5.0	0.80			-	
2 免震・制震・制振性能				5.0	5.0	0.20			-	
2.2 部品・部材の耐用年数		3種にBを使用、Eは不使用	②	3.3	3.3	0.33			-	
1 躯体材料の耐用年数				3.0	3.0	0.23			-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				3.0	3.0	0.23			-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	3.0	0.09			-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	3.0	0.08			-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				5.0	5.0	0.15			-	
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	3.0	0.23			-	
2.4 信頼性		吊配管と適切な系統区分 節水器具の採用、汚水ピットの確保、井水利用、水槽水栓設置 受電の2重化、受変電設備の屋上設置、非常用発電機の設置 耐震クラスS 全項目採用	②	4.8	4.8	0.19			-	
1 空調・換気設備				4.0	4.0	0.20			-	
2 給排水・衛生設備				5.0	5.0	0.20			-	
3 電気設備				5.0	5.0	0.20			-	
4 機械・配管支持方法				5.0	5.0	0.20			-	
5 通信・情報設備				5.0	5.0	0.20			-	

3 対応性・更新性				3.3	0.29				3.3
3.1 空間のゆとり				4.2	0.31				
1 階高のゆとり			基準階で4.2m	5.0	0.60				
2 空間の形状・自由さ				3.0	0.40				
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.31				
3.3 設備の更新性				3.0	0.38				
1 空調配管の更新性		②		3.0	0.17				
2 給排水管の更新性				3.0	0.17				
3 電気配線の更新性				3.0	0.11				
4 通信配線の更新性				3.0	0.11				
5 設備機器の更新性				3.0	0.22				
6 バックアップスペースの確保				3.0	0.22				
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30				3.0
1 生物環境の保全と創出		独自③		1.0	0.30				1.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④	グレー系の色彩で既存街並みに調和し、園道沿いに並木を形成	5.0	0.40				5.0
3 地域性・アメニティへの配慮				2.5	0.30				2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④		3.0	0.50				
3.2 敷地内温熱環境の向上				2.0	0.50				
LR 建築物の環境負荷低減性									3.3
LR1 エネルギー					0.40				3.7
1 建物外皮の熱負荷抑制			BPI _m =0.8	5.0	0.30				5.0
2 自然エネルギー利用			自然換気システム、クールヒートドレンチ	4.0	0.20				4.0
3 設備システムの高効率化				2.6	0.30				2.6
4 効率的運用				3.5	0.20				3.5
集合住宅以外の評価				3.5	1.00				
4.1 モニタリング			BEMS採用	4.0	0.50				
4.2 運用管理体制				3.0	0.50				
集合住宅の評価				-	-				
4.1 モニタリング				-	-				
4.2 運用管理体制				-	-				
LR2 資源・マテリアル					0.30				3.0
1 水資源確保				3.4	0.15				3.4
1.1 節水			節水器具の採用	4.0	0.40				
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60				
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67				
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33				
2 非再生性資源の使用量削減				2.9	0.63				2.9
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.07				
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24				
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		②	-	3.0	0.20				
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		独自	-	1.0	0.20				
2.5 持続可能な森林から産出された木材				2.0	0.05				
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		独自	乾式工法を採用し、設備シャフトを明確化し再利用を容易にした	5.0	0.24				
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.0	0.22				3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	0.32				
3.2 フロン・ハロンの回避				3.0	0.68				
1 消火剤				-	-				
2 発泡剤(断熱材等)				3.0	0.50				
3 冷媒				3.0	0.50				
LR3 敷地外環境					0.30				3.1
1 地球温暖化への配慮		①	積極的な省エネルギー対策	3.3	0.33				3.3
2 地域環境への配慮				3.0	0.33				3.0
2.1 大気汚染防止			燃焼機器無し	5.0	0.25				
2.2 温熱環境悪化の改善				2.0	0.50				
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.0	0.25				
1 雨水排水負荷低減		独自		3.0	0.25				
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25				
3 交通負荷抑制		独自	周辺交通に配慮した駐車場計画	5.0	0.25				
4 廃棄物処理負荷抑制				1.0	0.25				
3 周辺環境への配慮				3.2	0.33				3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40				
1 騒音		独自		3.0	0.33				
2 振動		独自		3.0	0.33				
3 悪臭				3.0	0.33				
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40				
1 風害の抑制				3.0	0.70				
2 砂塵の抑制				-	-				
3 日照障害の抑制				3.0	0.30				
3.3 光害の抑制				4.4	0.20				
1 屋外照明及び屋内照明のうらみに漏れる光への対策			適切な照明計画	5.0	0.70				
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30				

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

知多信用金庫 本部

■評価ソフト:

CASBEE-BD_NC_2016(v2.1)_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.3
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.3	0.10	
② 資源の有効活用				3.3
Q2-2	耐震性・信頼性	4.4	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.3	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.9	0.19	
③ 敷地内の緑化				1.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	外構緑化:14.9%/建物緑化:0%
④ 地域材の活用			(評価ポイント)	1.0
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	<ul style="list-style-type: none"> ・金融機関の本部建替計画として、現状の本部建物敷地を含めた近接3敷地に本部棟・事務センター棟・本店営業部棟の3棟を整備する全体計画のうちの1建物です。 ・本建物は金融機関の本社機能であり店舗等ではありませんので、外部の一般の方が使用することはありませんが、1階ギャラリーに来館いただけます。
Q1 室内環境	<ul style="list-style-type: none"> ・間仕切壁は天井内上部スラブまでとして、室内の遮音性に配慮しました。 ・ガラス面にはブラインドを設置し、日射熱を軽減する計画としました。
Q2 サービス性能	<ul style="list-style-type: none"> ・職員が利用する事務的エリアは努めて機能的な内装計画としました。 ・設備更新に配慮し、余裕のある設備シャフト・天井懐を確保しました。
Q3 室外環境(敷地内)	<ul style="list-style-type: none"> ・国道側は建物をセットバックし、植栽を設け周囲の景観形成に配慮しました。
LR1 エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ・Low-E複層ガラスを採用し、建物外皮性能を向上しました。 ・高効率機器を採用し、エネルギー消費量を削減しています。 ・エネルギー使用量をモニタリングし、適切な運用に寄与しています。
LR2 資源・マテリアル	<ul style="list-style-type: none"> ・オゾン層破壊係数0の冷媒を採用しています。
LR3 敷地外環境	<ul style="list-style-type: none"> ・騒音源となる設備を屋上に集めることで、周囲への騒音に配慮しました。
その他	